

September 9, 2019

【前日の為替概況】ドル円、ほぼ横ばい

6日のニューヨーク外国為替市場でドル円はほぼ横ばい。終値は106.92円と前営業日NY終値(106.94円)と比べて2銭程度のドル安水準だった。米労働省が発表した8月米雇用統計で、非農業部門雇用者数が前月比13万人増と予想の前月比15万8000人増を下回ったことが分かると円買い・ドル売りが先行。同時に発表された平均時給は前月比/前年比ともに予想を上回ったものの、23時前には一時106.62円と日通し安値を付けた。

ただ、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長がスイス・チューリッヒでの討論会で「景気見通しに著しいリスクがある」「FRBは景気拡大を維持するため適切に行動する」としながらも「米経済は良い状態にあり、インフレも目標の2%に戻っていくだろう」「リセッションは予想しない」などと述べると全般ドル買いで反応し、一時106.94円付近まで持ち直した。市場では「追加利下げの可能性を示唆したものの、17-18日のFOMCで利下げを決断するかは明言を避けた」との声が聞かれた。

ユーロドルは小幅下落。終値は1.1029ドルと前営業日NY終値(1.1035ドル)と比べて0.0006ドル程度のユーロ安水準だった。来週12日の欧州中央銀行(ECB)理事会での利下げをはじめとした緩和策への期待が根強い中、20時30分過ぎに一時1.1020ドルと日通し安値を付けたが、前日の安値1.1017ドルがサポートとして働く買い戻しが優勢に。8月米雇用者数が予想を下回ったことが分かるとユーロ買い・ドル売りが強まり一時1.1057ドルと日通し高値を更新した。もっとも、パウエルFRB議長の発言後にドル買い戻しが進むと1.1025ドル付近まで押し戻された。なお、ユーロドルは今日一日を通じて方向感に乏しい展開だった。値幅も0.0037ドル程度と小さい。

ユーロ円は3営業日ぶりに小反落。終値は117.89円と前営業日NY終値(118.01円)と比べて12銭程度のユーロ安水準。欧州市場序盤に一時118.27円と日通し高値を付けたあとはじりじりと上値を切り下げる展開となり、21時30分過ぎに一時117.82円と日通し安値を付けた。ただ、NY市場に限ればドル相場となったため117円台後半での狭いレンジ取引に終始した。

【本日の東京為替見通し】ドル円 伸び悩むか、来週のFOMC利下げ確実で

本日の東京市場のドル円は、来週17-18日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で0.25%の第2次追加利下げがほぼ確実となったことで上値が重い展開が予想される。

今週は、来月開催予定の第13回米中閣僚級通商協議に向けた実務者協議での進展の度合い、週後半の米8月の消費者物価指数や小売売上高などから利下げ幅が0.50%となる可能性を見極めていくことになる。また、米政府に香港の民主的発展への支持を呼び(予備)かけた香港の抗議デモの動向も要注意か。

パウエルFRB議長は、米8月雇用統計発表後、ブラックアウト期間直前の発言で、「景気拡大を維持するため引き続き『適切に行動する』」と述べた。6月19日と7月31日のFOMC声明と同じ表現を使っており、9月18日のFOMCでのミッドサイクルの予防的利下げとしての第2次追加利下げを示唆した。

米連邦準備理事会(FRB)は、これまで1984年、1995年、1998年に「予防的利下げ」を行った。グリーンズパン第13代FRB議長は、1995年と1998年に3回($x0.25\%=0.75\%$)の利下げを行っており、パウエルFRB議長も、米中貿易・通貨安戦争の経緯を注視しながら、2019年末にかけて計3回程度の利下げを示唆している。

さて、先週発表された米8月の非農業部門就業者数は前月比+13.0万人の増加に留まったことで、今年の月平均は+15.8万人となっている。これにより、2018年の+22.3万人、17年の+17.9万人、16年の+19.3万人、15年の+22.7万人から減少していることが確認された。また、20年国勢調査に向けた臨時政府職員2万5000人の雇用が押し上げており、この臨時雇用という特殊要因を除けば+10.5万人の増加だったことになる。米労働市場への過剰な期待は控えたほうがよいか。

ドル円は4月の112.40円を高値に窓を開けて下落トレンドが始まり、ダブルボトム(104.87円・104.46円)を付けた。ドル円のこれまでの年間最少変動幅は約10円なので、112.40円が年間高値ならば安値は102.40円付近、104.46円が年間安値ならば、高値は114.46円付近となる。年末に向けて、114.46円と102.40円の可能性を念頭に置きながら、トランプ米大統領と習中国国家主席、そしてパウエルFRB議長とのチキンレースを見極めていくことになるだろう。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◎ 7月国際収支速報
 - ◇ 経常収支（予想：季節調整前2兆832億円の黒字／季節調整済1兆7006億円の黒字）
 - ◎ 貿易収支（予想：240億円の赤字）
- 08:50 ☆ 4-6月期実質国内総生産（GDP）改定値（予想：前期比0.3%／前期比年率1.3%）
- 14:00 ◇ 8月景気ウォッチャー調査（予想：現状判断指数41.3／先行き判断指数43.6）

<海外>

- 07:45 ◇ 4-6月期ニュージーランド（NZ）製造業売上高
- 14:45 ◇ 8月スイス失業率（季節調整前、予想：2.2%）
- 15:00 ◇ 7月独貿易収支（予想：174億ユーロの黒字）
- 15:00 ◇ 7月独経常収支（予想：164億ユーロの黒字）
- 17:00 ◎ ブリハ英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 17:30 ☆ 7月英国内総生産（GDP、予想：前月比0.1%）
- 17:30 ◇ 7月英商品貿易収支／英貿易収支（予想：96億ポンドの赤字／15億ポンドの赤字）
- 17:30 ◎ ◎ 7月英鉱工業生産指数（予想：前月比▲0.1%／前年比▲1.1%）
 - ◎ 製造業生産高（予想：前月比▲0.1%）
- 20:00 ◎ 8月メキシコ消費者物価指数（CPI、予想：前月比0.02%）
- 21:00 ◎ 7月ブラジル小売売上高指数
- 22:00 ☆ 4-6月期ロシア GDP 改定値（予想：前年比0.9%）
- 10日 04:00 ◇ 7月米消費者信用残高（予想：160億ドル）

10日

<国内>

- 08:50 ◇ 8月マネーストック M2

<海外>

- 10:30 ◎ 8月中国 CPI
- 10:30 ◎ 8月中国生産者物価指数（PPI）
- 10:30 ◇ 8月豪 NAB 企業景況感指数

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

6日 12:38 トランプ米大統領
「債券市場が促しているように、米連邦準備理事会
(FRB)が金利を引き下げればリセッションのことを気に
する必要がない」
「中国は我々より合意したがっている」

6日 12:53 メルケル独首相
「独は中国の投資にオープン」
「中国の全ての企業に独への投資を勧める」

6日 13:36 黒田日銀総裁
「マイナス金利の深堀りは従来から示している4つのオ
プションに必ず入っている」
「世界経済はさらに下方リスクが高まっている」

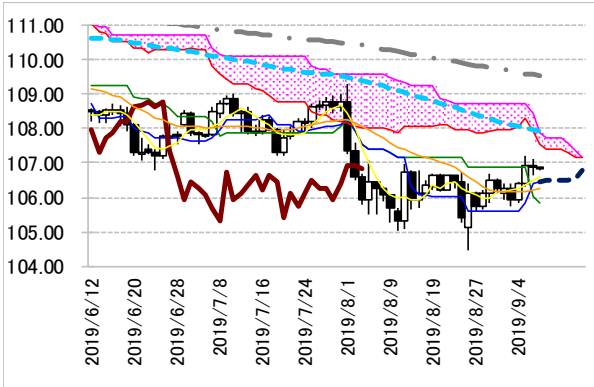
6日 22:56 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長
「現在の米中の緊張は和らいでいる」
「(合意目前の)5月時点の状況に戻りたいが、どうなる
かは予想できない」
「大統領は、中国が合意を望んでいると信じている」

7日 01:47 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長
「FRBは政治に関係しない政策決定にコミット」
「米経済は良い改善が続いている」
「米経済は良い状態にある」
「景気見通しに著しいリスクがある」
「FOMCは適切な行動を継続する」
「FRBは景気拡大を持続させるため適切な行動をする」
「リセッションは予想せず」
「貿易政策についてはコメントせず」
「景気支援のためのツールを使用し続ける」
「FOMCはグループ思考ではない」
「(政治的な政策決定あるかとの問いに)絶対にない」
「政策決定に政治的要因は何の役割も果たさない」
「ブレグジットや香港、地政学的リスクを注視」
「米インフレは2%を若干下回っている」

7日 01:50 ジョーダン SNB(スイス国立銀行)総裁
「スイス経済の成長ペースは以前より鈍化」
「世界経済の影響をスイスは大きく受ける」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

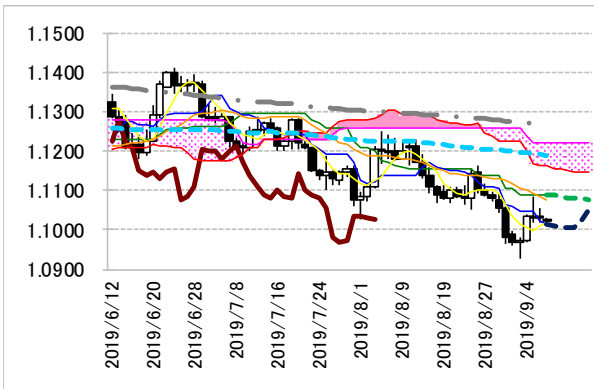


<ドル円＝上昇する転換線が支え>

下影極小陰線引け。一目均衡表・基準線を上回り抵抗を1つこなししたが、低下を再開した同線は強い支えとならず、106.62円まで下押す場面もあった。

しかし上昇中の5日移動平均線の手前で下げ渋る底堅さを示し、107円回復をうかがう水準まで戻して週末の取引を終了。下値に控える一目・転換線も上昇が見込まれ、下支えになるとみられる。

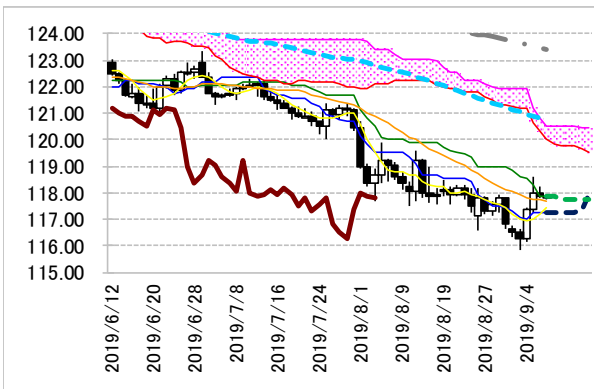
レジスタンス 2	107.86(日足一目均衡表・雲の上限)
レジスタンス 1	107.23(9/5 高値)
前日終値	106.92
サポート 1	106.44(日足一目均衡表・転換線)



<ユーロドル＝やがて上値の基準線に近づくと予想>

上影小陰線引け。反発局面で上昇を抑えられ、上値の重さを示す上ひげを形成して押し戻される展開が続いた。一目均衡表・転換線の低下に沿って、水準を切り下げている。だが、同線は現水準1.1012ドルから、11日に1.1006ドルまで小幅に低下して底打ちする見込み。転換線付近で下げ渋り、同線と一目・基準線に挟まれたレンジにとどまることが想定できる。転換線はその後の上昇する流れにあり、同線とともに、基準線へ近づくとみる。

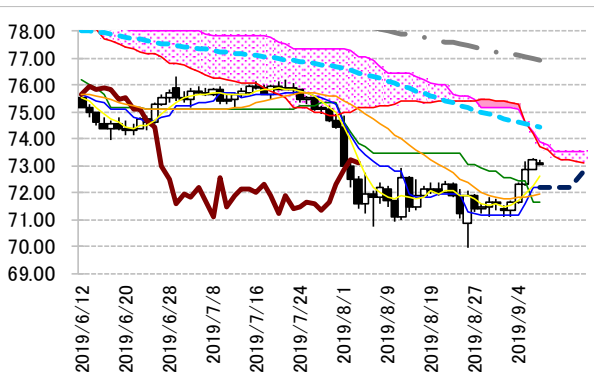
レジスタンス 1	1.1088(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.1029
サポート 1	1.0949(9/5 上昇幅の下方倍返し)



<ユーロ円＝やがて転換線が基準線を上回り買い示唆へ>

上影小陰線引け。一目均衡表・基準線を上回る水準で売り圧力にさらされ、押し戻されている。まだ小幅な低下を続ける見込みの基準線付近で戻りの鈍い動きが続く可能井がある。しかし、下値の一目・転換線が現水準117.24円から、来週にも上昇を再開する見込み。転換線が基準線を上回って買い示唆となるのにもない、相場は強さを回復すると予想する。

レジスタンス 1	118.61(9/5 高値)
前日終値	117.89
サポート 1	117.24(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円＝雲の抵抗を試す展開に>

陽線引け。8月1日以来の高値73.29円まで上伸した。一目均衡表・雲の下限を試す展開となりつつある。雲の抵抗に上昇を阻まれ、いったん調整の下押しを挟むことも想定しておきたい。だが、今後の上昇基調を強める見込みの一目・転換線が支えとなり、雲を上抜くことが期待できる。

レジスタンス 1	73.73(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	73.20
サポート 1	72.62(5日移動平均線)

